

が社会に対して開かれているという点であつた。大学は社会人に対する教育、啓発に熱心であり、社会人向けの集中講座が定期的に各学部で開催されている。また、大学の通常の授業についても多くの場合容易に聴講が可能であり、日本でも最近話題になつている生涯教育の考え方が根をおろしたように感じられる。

最後に、ペンシルバニア州立大学で忘れてならないのはスポーツ、中でも常に全米トップテンに入る実力を持つたアメリカンフットボールであろう。9月から11月

にかけての毎週末、普段は静かな State College の町もフットボールの熱気で沸き返る。競技場の熱狂ぶりはとて日本では想像できないほどのものであり、筆者も留学中こうしたフットボールの魅力のとりこになつた1人である。

2年弱の短い期間であつたが、大学での研究に加えて、陽気でフランクな米国人の親切さ、精神的な豊かさに触れることのできた有意義な日々であつた。

コ ラ ム

ワープロ考

最近、研究室にマイコンを入れました。学生と取合いをしながら使っています。ワープロとして使うことも多いのですが、このワープロというものは、便利なようであるが不便なこともあるのです。

まず第1のジャクの種類は、思考をまとめながらキーを打つ、ということができないのです。原稿用紙に向かっているときには、手の方が勝手に動いてくれて思考は別に中断されることはないのですが、キーボードに向かつたときにはそれは参りません。カナ漢字変換作業があるために、その作業に気をとられて思考が中断してしまうのです。平面におかれたディスプレイの上に、原稿用紙に書くのと同じように文字を書いていくとそれが活字になる、というものができないでしょうか。そして、従来の切つたり貼つたり、という作業はワープロの機能で実行してもらいます。

このようなわけで、今のところワープロはほぼ清書の段階となつてから使うこととなります。ところが、清書の段階でまたまた障害が出現いたします。従来ですと、清書を終了しますと、内容に多少不満な点がありましても、もう一度清書をやりなおすことはたいへんなことですから、エイヤッ、と終りにしてしまいま

す。ところがワープロは限りなく修正が可能なのです。これによろしい、と思つてプリントアウトさせ、もう一度読み返しますとまた気に入らないところが出てきます。そこで修正をして再度プリントアウトします。読み返しますとまた気に入らないところが出てきます。また修正し……。かくして無駄紙の山ができてしまいます。結局、何となく不満を残したまま締切日、あるいはそれをも過ぎて編集者からの催促により終了いたします。

ところで、鉄と鋼の投稿にも少しではありますが、ワープロで作成した原稿が来るようになりました。投稿規定では所定の原稿用紙を用いることになつていすので、これはタテマエでは規定に違反です。しかし、1行25文字1ページ18行（日本鉄鋼協会原稿用紙のマス目に同じ）となつている場合には、受け付けてもらえるようです。

ワープロで投稿される場合、修正が容易であることを逆手にとつて、査読者からの指摘をうけてから修正しよう、などという不心得はおこさないで下さい。修正が容易である、という利点を大いに活用して、十分推敲されるようお願いいたします。

(千葉工業大学工学部 雀部 実)